

# メンゼル博士を悼む

古畑 正 秋\*

元ハーバード大学天文台長 Donald Menzel 博士が去る1976年12月14日逝去された旨、東京天文台に入電があった。博士を知る者の一人として謹んでお悼み申上げたい。

博士は1901年の生れであるから享年75才、まだそれほどの高年とはいえないのに惜しいことである。コロラド州に生れ、デンバー大学を卒業後、プリンストン大学を経て、ハーバード大学院に学び、1923年に学位を得ている。学位論文は“A Study of Line Intensities in Stellar Spectra”であったが、それからずっと長く、ほとんど天体物理の道歩んでこられた。アイオワおよびオハイオ州立大学で1年ほど教えた後、1926年にリック天文台の助手となり、太陽の研究、とくに彩層の研究に従事された。

1932年にはハーバード大学に戻り、理論天文の講師をするとともに、主として日食の研究にうちこまれた。1936年には隊長としてロシアへ皆既食の観測に出かけている。この間、1935年ころからアメリカ最初のコロナグラフの建設をはじめられ、当時ハーバード大学の物理学科の大学院生であったロバーツ博士を助手にして、1940に完成させ、それをコロラド州のクライマックスに据えつけている。コロナグラフについてはその後サクラメント・ピークのものについても、その建設に協力されている。

太陽のほか、恒星スペクトル、惑星大気などの研究も行い、とくに惑星状星雲についての研究に力を入れている。当時若手の J. ベーカー、L. ゴールドベルグ、L. アラーを助手ないし協力者として多くの論文を発表している。戦争中3年間は海軍に入り軍事研究に従事している。

1952年には引退したシャプレー台長のあとを受けて台長代理を務め、1954年1月から1966年3月まで、つごう13年の長きに亘って同天文台の6代目の台長職にあった。引退後はハーバード大学およびスミソニアン天文台の연구원として研究を続けていた。

晩年には月面や惑星にも興味をもち、1964-67期のIAUの第17委員会(月)の委員長を務めている。1970年のブライトンにおけるIAU総会では月の裏面命名のワーキンググループの座長をつとめたことがある。ほかに空飛ぶ円盤についても興味をもって調査をしたことが

あるようである。

著書として最も有名なのは“*Our Sun*”で、1949年に出版され、同博士の処女作でもある。これは日本でも訳書が出たのでご存知の方が多いであろう。1955年には“*Fundamental Formulas of Physics*”を編さんされ、そのほ



か“*Radio Noise Spectrum*” (1960), “*Principles of Atomic Spectra*” (1968)などの専門書がある。一般の啓蒙書も少し書かれ、その中には“*A Field Guide to the Stars and Planets*” (1964)がある。空飛ぶ円盤についての興味ももたれたことは前述したが、1963年に“*The World of Flying Saucers*”を出している。この本は私は見たことがないのでよく知らないが、円盤は自然の光現象に過ぎないと結論しているとのことである。

博士ご夫妻は1963年のCOSPAR総会の折に来日されたとのことであるが、私は折悪しく海外にあってお目にかかれなかった。1967年のプラハにおけるIAU総会で、実に久しぶりにお目にかかったが、これは博士が台長を引退して間もなくの頃で、美しい白髪となっておられたのに驚いたことを覚えている。

日本では萩原先生が博士と同年代でもあり、とくにご親交があった。惑星状星雲の研究などでよきライバルであった。1938年、ちょうど私がハーバード天文台へ行ったばかりのころ、ヨーロッパのIAU総会からの帰途萩原先生がハーバードへ立寄られ、ご一緒にメンゼル家へご招待を受けた。メンゼル夫人がスキヤキの材料を用意されたので、よせばよいのに私が料理したところ、水を入れすぎて、まことにまずいものになり、メンゼル夫人のたいたごちゃごちゃのご飯とともに、何ともいかないものだったことを今も覚えている。博士の重厚な英語とともになつかしく思い出す。心からご冥福を祈りたい。

\* M. Huruhata